

【ガザ（パレスチナ自治区）Ⅱ村上伸一】イスラエル軍によるレバノン攻撃が激化するなか、イスラエルの二正面作戦のもう一方の地、ガザでも激しい攻撃が続いている。イスラム過激派ハマスが握るパレスチナ自治政府は主要省庁の建物が破壊され、機能していない。厳しい生活を強いられる子どもたちの栄養失調は深刻化している。

ガザも深刻



死者150人、栄養失調の子供増加

武装集団が拉致したイスラエル兵の救出とロケット弾攻撃の阻止を目的とするイスラエル軍のガザ攻撃は、6月27日夜に始まった。当初は空爆が中心だったが、最近では戦車などで侵攻しての地上戦を展開。これまでのパ

レスタチナ人の死者は150人を超え、ほぼ半数が子どもを含む一般住民とみられている。

24日には北部にある自治政府職員住宅が砲撃された。住人のアフマドさんによると、イスラエル軍は武装集団の関係者が住んでいるとして全住民の退去を命令。アフマドさんの家族7人は近くのジャバリヤ難民キャンプの親類宅に避難した。

「テロと無関係の我々市民の生活も破壊している。失うものがなくなつた人間を増やせば、どんな恐ろしい報復があるか、イスラエルは考えるべきだ」

すでに内務省や外務省、首相府などの建物が空爆で破壊され、職員の自宅待機が続く。ハマスの閣僚はイスラエル軍に殺害されるのを警戒し、姿を隠している。

拉致されたイスラエル兵の解放について、自治区の大統領に相当するアッバス議長は最近、樂觀的な見通しを表明した。

だが、拉致を実行したハマスの武装集団は否定しており、エジプトなどの仲介でイスラエルが兵

士解放の交換条件を受け入れるかどうかが焦点と見られている。

栄養失調児を助ける地元NGOの「アルド・エルインサン」（人間の大地）がガザ南部のハンユニスに設けている施設では、毎日約50人の子どもが連れられて来る。支援している日本国際ボランティアセンター（JVC）の藤屋リカ現地調整員は「栄養失調の程度が悪化している」と指摘す

子どもたちにスープを食べさせる母親たちⅡ29日、ガザで、村上写す

る。

る。

る。

る。